



日本その他のG7諸国の各都市における 健全なネットゼロ社会への移行に向けた コベネフィットの活用

エリック・ザスマン

IGES(公益財団法人地球環境戦略研究機関)

リサーチディレクター

川崎エコビジネスフォーラム

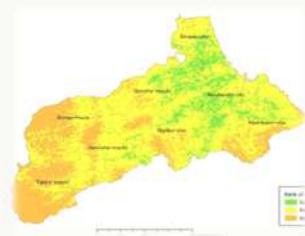
2025年11月12日



日本その他のG7諸国の各都市における健全なネットゼロ社会への移行に向けたコベネフィットの活用

- 開始日: 2023年9月
- パートナー: 日本、アメリカ、フランスの9機関
- 目標: 日本その他のG7諸国の各都市に

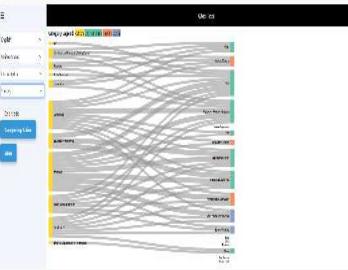
1. エビデンス



2. 経験



3. ツール



を提供することにより、健康コベネフィットの気候その他の計画への統合に資する。

プロジェクト実施都市: G7加盟国5都市





プロジェクトのユニークな特徴

コベネフィット研究と統合的政策間の連携を強化する

私たちは、科学に基づいた気候変動対策の実現に向けて、コベネフィットに関する科学的、社会的知見を地方自治体の政策に反映させることを目指しています。

本当の現地のインパクトを生み出す

私たちは市町村と連携し、住民の健康を直接改善するとともに、気候危機に取り組む政策を実施しています。

規模拡大・縮小が可能なモデルを創出する

私たちは、他の市町村でも利用できる柔軟な枠組の開発に取り組んでいます。

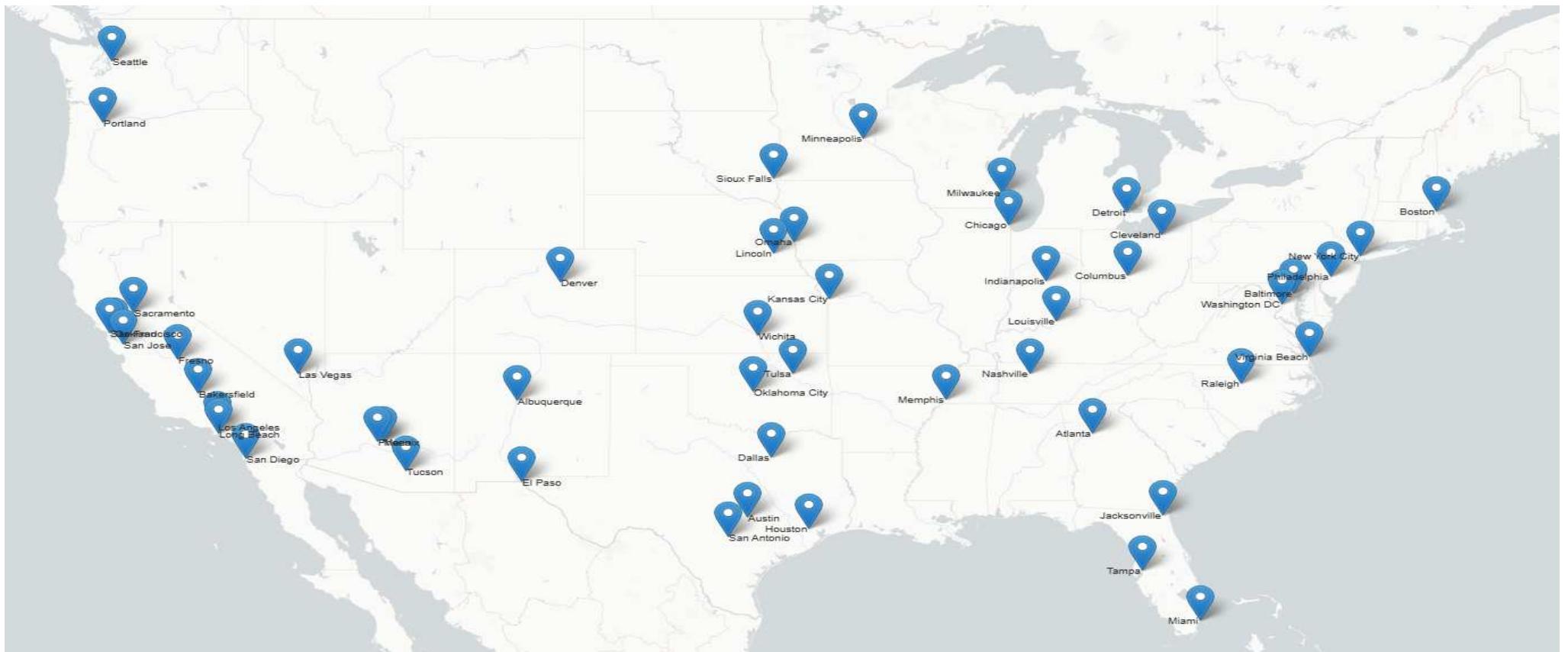
八戸市におけるソーラーシェアリングのシナリオに基づいた共同便益分析

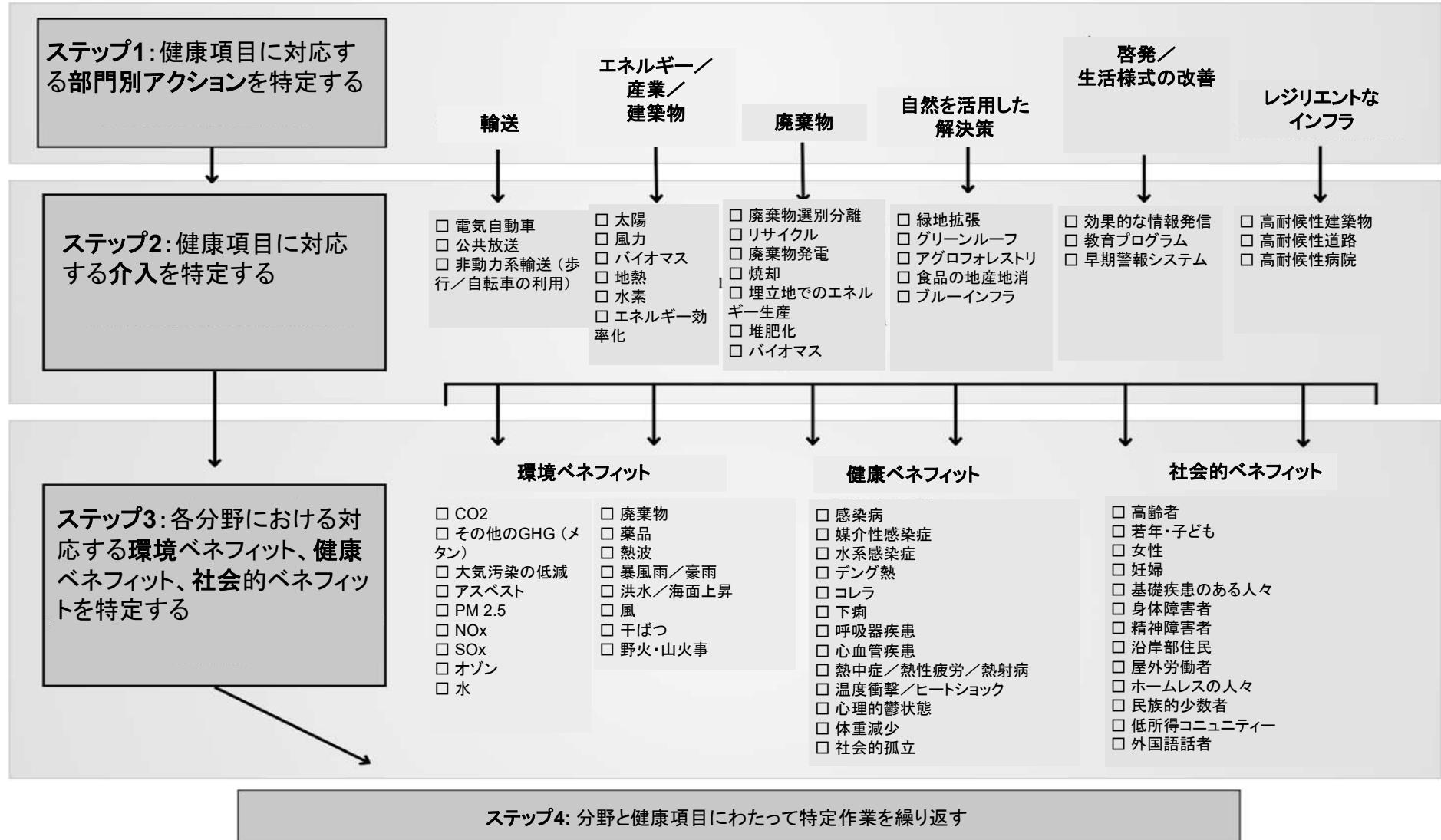
(九州大学のハイブリッド再生可能エネルギー・シナリオモデルに基づく)



| シナリオ | 野心的シナリオA | 野心的シナリオB | 野心的シナリオC |
|---|---------------------------|-------------------------|----------------------------|
| アグリボルタイクス(営農型太陽光発電)での利用が期待できるエネルギー・ミックスの中のエネルギー源と十分に利用されていない土地の割合 | 十分利用していない土地の20%を使用した場合 | 十分利用していない土地の50%を使用した場合 | 十分利用していない土地の100%を使用した場合 |
| 設備容量 | ≈207.2 MW (207,200 KW) | ≈518 MW (518,000 KW) | ≈1,036 MW (1036,000 KW) |
| 環境コベネフィット: 削減貢献量 | | | 環境コベネフィット: 削減貢献量 |
| GHG (トン/年) | 302,957.8 | 757,394.5 | 1,514,789.1 |
| PM _{2.5} (kg/年) | 13,461.9 | 33,654.8 | 67,309.5 |
| CO (kg/年) | 593,670.1 | 1,484,175.3 | 2,968,350.5 |
| NO _x (kg/年) | 84,136.9 | 210,342.3 | 420,684.6 |
| 健康／経済コベネフィット | | | 健康/経済コベネフィット |
| 年間医療費節約額 (1000ドル/年) | 2,709 | 6,782 | 13,598 |
| グリーンジョブ(建設、運営、間接部門を含めた総推定額) | 1,491 | 3,727 | 7,453 |

私たちちは米国でも米国全土での健康コベネ
フィットを注視しています。





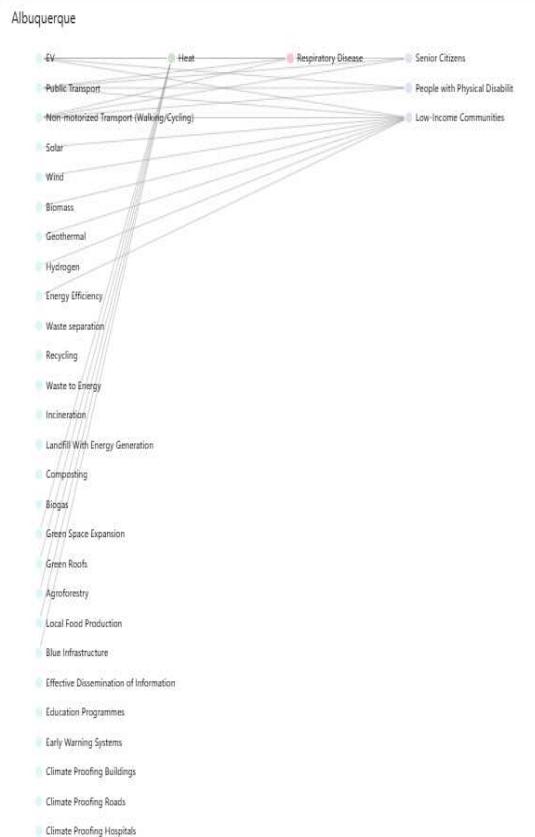
相互関連とサンキーダイアグラム

気候・健康統合プランニングツール

環境ベネフィット

健康ベネフィット

社会的ベネフィット



気候・健康統合プランニングツール

環境ベネフィット

健康ベネフィット

社会的ベネフィット

Albuquerque

